

中学校第1学年 保健体育科 学習指導案

期 日 平成 28 年 2 月 19 日 (金) 第 2 校時

場 所 山鹿市立山鹿中学校 運動場

指導者 教諭 内田 正典

1 単元名 球技 (タグラグビー : ゴール型)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領保健体育の以下の項目に基づくものである。

E 球技

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームが展開できるようにする。
- (2) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
- (3) 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

タグラグビーはゴール型の類に入り、タグを付けた 2 つのチームが入り交じり、ボールを手で持って相手をかわして走ったり、ボールをパスでつないだりしながら、ゴールラインまでボールを運ぶこと (トライによる得点) を競い合う運動である。近年、みんなで一緒に楽しめるボールゲームとして、小学校を中心に授業実践が広がっている運動である。

タグラグビーは、他の球技に比べて、ゲームに必要な個人的技術が易しく、容易にゲームに参加することができる。そのため、運動が苦手な生徒も含めて、どの生徒も今持っている力で楽しむことのできる運動である。さらに、「仲間との協力」によってゲームが展開されるという運動の特性 (楽しさ) から、豊富な運動量が確保されたり、ゲーム中のいろいろな動きから敏捷性やバランス感覚が養われたりすることも期待できる運動である。

多くの生徒にとって初めて経験する運動種目であることから、個人差や男女差が顕在化していないので、運動の得意な生徒も苦手な生徒も、男女も関係なく全ての生徒が同じスタートラインから学習に取り組むことのできる単元である。

(2) 系統観

小学校 第 5 学年及び第 6 学年	中学校 第 1 学年及び第 2 学年	中学校 第 3 学年	高等学校 入学年次
E ボール運動 ア ゴール型 ボール操作やボールを受けるための動きによって攻防する、簡易化されたゲーム	E 球技 ア ゴール型 ボール操作と空間に走り込むなどの動きによって、ゴール前での攻防を展開する種目	E 球技 ア ゴール型 安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによって、ゴール前への侵入などから攻防を展開する種目	E ボール運動 ア ゴール型 状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する種目

(3) 生徒観 (男子 21 名、女子 17 名 計 38 名)

◇事前調査 (12 月 8 日実施) より

①運動習慣、運動に対する意識調査の結果について (調査人数 男子 19 名、女子 15 名 計 34 名)

	運動やスポーツをすること 「よくしている」の回答率 (%)	運動やスポーツをすること 「好き」の回答率 (%)	運動やスポーツをすること 「得意」の回答率 (%)
全体	64.7	61.8	50.0
男子	68.4	63.2	52.6
女子	60.0	60.0	46.7

②体育学習に関する意識調査の結果について

	肯定的な回答率 (%)	情意目標因子（「体を動かすと気持ちがいい」等の項目）と社会的行動目標因子（「約束ごとを守る」等の項目）について、肯定的な意識が高い。
情意目標因子	75.7	しかし、認識目標因子（「めあてをもって運動する」等の項目）と運動目標因子（「進んで運動する」「上手にできるようになる」等の項目）について、肯定的な意識がやや低い。
認識目標因子	66.9	
運動目標因子	59.8	
社会的行動目標因子	79.7	

③「関係形成」に関する意識調査の結果について

	肯定的な回答率 (%)	協同効用因子（協同の良さや大切さ等の項目）の結果から、子どもたちは協同することの有用性を感じている。しかし、互惠懸念因子（「運動が得意な人は協同する必要がない」等の項目）や個人志向因子（「一人の方がやりやすい」等の項目）では、肯定的な回答率が低く、協同に関する間違ったとらえ方や消極的なとらえ方をしている割合が高い。
協同効用因子	73.9	
互惠懸念因子	32.9	
個人志向因子	25.0	

* 互惠懸念因子と個人志向因子では「いいえ」の回答を肯定的な回答とする。

◇体育学習における協働・協調的な学びについて

山鹿中学校の保健体育の授業は、男女別習を基本に進められているが、今年度より男女共習を取り入れながら授業を進めている。陸上競技や水泳、器械運動やソフトボールなどの授業では男女共習を経験し、男女混合のグループ編成による活動もスムーズにできている。また、学び合いを中心とした学習も経験してきており、課題解決活動では仲間同士で協力し、教え合ったり、補助し合ったりすることができている。

(4) 指導観

◇子どもたちに「運動の特性（楽しさ）」を味わわせるための視点から

今回の学習で味わわせたいタグラグビーの特性（楽しさ）は、「仲間と協力してトライを目指す楽しさ」「みんなで思い切り体を動かす楽しさ」である。

「仲間と協力してトライを目指す楽しさ」では、課題解決活動やゲームの中で、サインプレイを考えたり選んだりする場面を設定するなど、活動を工夫したい。また、運動やスポーツをすることが「得意」と感じている生徒が少ない。「自分もできた」といった成功体験が少なく、自己の技能に自信が持てない現状が伺える。技能習得のための時間を十分に確保したり、作戦ボードや基礎的な動きを紹介するシートを活用するなどの教材を工夫したりしたい。

「みんなで思い切り体を動かす楽しさ」では、ランとパスという比較的簡単な技能で得点を得られるというタグラグビーの良さを生かして、全ての生徒が得点する楽しさを味わうことのできる活動を工夫していきたい。ルールやコート of 広さを工夫することで、スペースを見つけて走りやすいようにしたり、得点（トライ）をしやすくしたりし、生徒たちの成功体験を増やしていくようにしたい。そのことによって、全ての生徒が意欲的に参加し、思い切り体を動かすことができると考える。みんなが一生懸命に走ったりタグを取ったりする活動を通して、みんなが楽しめるタグラグビーをみんなで築いていく授業を展開していきたい。

◇子どもたちの「関係形成」をはぐくむための視点から

本学級において、協働することの良さや大切さといった有用性を感じているものの、「一人のほうがやりやすい」といった考えを持つ生徒が多い。そのため、運動能力や技能の高い生徒が個人プレイに走ることが考えられる。今回、全ての生徒がタグラグビーに積極的に参加し、仲間との学び合いの中で、みんなが楽しめる学習を展開していきたい。そのために課題解決活動では、グループ内の共通のめあてを明確に持たせることを心がけたい。めあてを明確にすることは技能の習得に効果が得られるとともに、仲間との協力やチームの団結力を高めることにつながると考える。共通のめあてを設定することで、互いに声をかけ合いながら学習に取り組んだり、めあてを達成したときの楽しさや喜びを共有したりすることができる。また、ゲームにおけるチームの作戦を立てる活動や課題解決活動を通して、互いを認め合ったり、協力し合ったりし仲間意識を高めさせたい。

単元全体や授業全体を通して、ラグビースピリッツ「For All」の精神を大切にしたい。そして、みんながみんなを大切にして、みんなで楽しく学習をつくり上げていく指導を目指したい。

◇熊本県立教育センターの研究の視点「協働・協調的な学習を充実するため3つの視点」から

【視点1】学びを引き出す 豊かなかかわり合いのある 言語活動	【視点2】学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	【視点3】学びを支える 学びのUD化と 効果的なICTの活用
○単元を貫く学習課題の設定 関係形成をはぐくみながら運動の特性(楽しさ)を味わう「単元を貫く学習課題」を設定する。 ○活動目標の明示 生徒が活動に見通しを持って取り組むことができるように、活動目標を明示する。 ○キーワードの活用 動きをイメージしたり助言したりできるように、擬声語や擬態語等を使いながら学習を進める。	○「振り返り」の設定 作戦や学習課題について話し合う「振り返り」を設定する。 ○ワークシートの工夫 ホワイトボード等を活用し、学習過程や学習時の個人またはチームメンバーの思考を可視化、共有化できるようにする。	○ルールの簡易化 みんなが楽しむことができるように、生徒の実態を考慮した簡易化ルールでゲームを行う。 ○ICTを活用したオリエンテーションの実施 映像でイメージをつかませ、技能の習得やルールの理解に役立てる。 ○学習環境の整備 作戦などの話し合いをする場や、動きを確認する場を固定化することで、見通しを持った学習を支援する。

◇インクルーシブ教育の視点から

【基礎的環境整備】

- ・一人一人が学習に見通しを持てるように、単元を通して単元計画を掲示したり、毎時間の学習過程(シラバス)を授業のはじめに提示したりする。
- ・本時のめあてを示し、学習課題を明確にした上で授業に取り組むようにする。

【合理的配慮】(生徒A)

- ・特別支援学級担任が、本人の様子を見ながら個別に声をかけたり学習資料を提示したりする。(説明は端的に述べ、擬声語や擬態語を使って各技術のイメージ化を図る。また、模範となる良い動きを一緒に確認したり、実際に行ってみたりする。)
- ・生徒Aと同じチームの生徒に対し、生徒Aが困っている場合には一緒に動いたり声をかけたりするなどの、生徒Aへの支援方法を伝えておく。

3 単元の目標と評価規準(参考:国立教育政策研究所作成「評価基準の設定例」)

単元の目標		○勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開できるようにする。 ○学習に積極的に取り組み、フェアにプレイすること、分担した役割を果たすことや、話し合いに参加することに意欲をもち、健康・安全に気を配ることができるようにする。 ○ラグビーの特性、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
評価規準	関心・意欲・態度	①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②仲間の学習を援助しようとしている。 ③チームの話し合いに参加しようとしている。 ④フェアなプレイを守ろうとしている。
	思考・判断	①ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ②自己やチームの課題を見付けている。 ③提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。
	技能	①ゴール前での攻防を展開するためのボール操作ができる。 ②ゴール前での攻防を展開するために、空間に走り込むなどの動きができる。
	知識・理解	①ラグビー(タグラグビー)の特性や成り立ちについて、言ったり書き出したりしている。 ②技術の名称や行い方について、言ったり書き出したりしている。

次	時	主な学習活動	指導上の留意点		評価の観点（評価方法） B 基準
			「運動特性」「関係形成」 の視点から	協働・協調的な学習 のための3つの視点	
1	1	・オリエンテーション 学習の進め方や単元 の流れ、ラグビーの特 性や成り立ちを理解 する。 ・スキルアップタイム タグとり	【関係形成】 男女混合の班編成 【運動特性】 基本技能の習得	【視点3】 I C T の活用	知識・理解①（学習カード） ラグビーの特性や成り立ちにつ いて、言ったり書き出したりして いる。 関心・意欲・態度①（観察） 基本技能の習得に向けて、進ん で学習活動に取り組むことができ る。
2	2	・タスクゲーム ランニング技能のポ イントを理解する。	【運動特性】 ランニング技能の理解	【視点1】 言語活動の充実	思考・判断（学習カード）① 技術を身に付けるためのポイント を見付けている。 知識・理解②（学習カード） 技術の名称や行い方について、 言ったり書き出したりしている。
	3	・タスクゲーム 基本的なパスの技能 を習得する。	【運動特性】 マークされていない味方 にパスを出す。		技能（観察）① マークされていない味方にパス を出すことができる。
3	4	・試しのゲーム 自己やチームの課題 を明確にする。	【関係形成】 話し合い活動	【視点1】 言語活動の充実 【視点3】 学びのUD化	思考・判断②（学習カード） 自己やチームの課題を見付ける ことができる。
	5	・試しのゲーム 課題に応じた練習方 法を選択し、助言し合 いながら練習する。	【関係形成】 話し合い活動	【視点1】 言語活動の充実 【視点2】 思考過程の可視化	思考・判断（学習カード・発言）③ 提供された練習方法から、課題 に応じた練習方法を選択してい る。 関心・意欲・態度②（観察） 学習課題の解決に向けて仲間 に助言することができる。
	6	・試しのゲーム ボールを持たない ときの動きを身に付 ける。	【運動特性】 空間を意識した動き		技能②（観察） パスを受けるために、ゴール 前の空いている場所に動くこ うができる。
	7 本時	・試しのゲーム チームの話し合いに 積極的に参加する。	【関係形成】 仲間との連帯感	【視点2】 「振り返り」の充実	関心・意欲・態度③（観察） チームの話し合いに参加し ようとしている。
4	8	・まとめのゲーム まとめのゲームを行 う。	【関係形成】 フェアプレイ		関心・意欲・態度④（観察） フェアプレイを守ろうとして いる。

学習課題	単元を貫く「問い」 みんなでタグラビーを楽しむために必要なものを身に付けよう。							
		みんなの基本技能を身に付けよう		みんなが活躍できる作戦（連係プレイ）をつくろう				For All の精神でゲームしよう
	特性を理解しよう	みんなでランニング技能を身に付けよう	みんなでパスの技能を身に付けよう	みんなでチームの課題を見つけよう	課題解決のためにみんなで助言し合おう	みんなですペースを意識した攻防を展開しよう	みんなが活躍できる作戦をつくろう	
	1	2	3	4	5	6	7	
0	準備・出欠確認・健康観察・準備運動等							
10	オリエンテーション	スキルアップタイム						まとめのゲーム
20		タスクゲーム (ラン中心) (パス中心)		課題解決活動				
30								
40	スキルアップタイム	試しのゲーム		試しのゲーム				
50	整理運動・振り返り・まとめ・片付け等							

6 本時の学習（第3次：7時間目）

(1) 目標

チームの話合いに積極的に参加することができる。（関心・意欲・態度）

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備 考
導入 8分	1 挨拶・健康観察 2 準備運動・補強運動 3 本時の学習内容確認 学習課題（めあて） チームのみんなが活躍できる作戦を、みんなでつくろう。	○健康状態を確認し、安全指導を心がける。 ○大きな動きやかけ声を意識させ、全員が意欲的に取り組む雰囲気づくりをする。 ○学習課題を確認することで、目標や見通しを持って活動できるようにする。	タグ ボード
展開 8分	4 スキルアップタイム ○1対1 ○3対2 or 2対2	○ランニングスキルやパススキルを活用しながら、練習するようにする。 ラン（カットイン・カットアウト・ダミース・スロー・チェンジオブペース） パス（クロス・ループ・ブラインド・とばし） 徹底指導 （ポイント） ◎パスの練習でスローとキャッチのスキルを高める。	ボール 練習例
3分	5 チームの作戦を考える（修正する）。 【言語活動】（設定の意図） 「みんなが活躍できる作戦」を考えたり修正したりする話合いを通して、作戦（全体の動きや自分の役割等）の理解を深める。	○仲間の良さを生かした作戦となるよう声をかける。 ○ボールを持たないときの動きにも注目できるようにする。 ○作戦ボードを活用しながら意見を出し合うようにする。	作戦ボード
7分	6 課題解決活動 ○作戦を生かした連係プレイの練習	○自分の役割を意識しながら練習する。 ○互いに助言し合いながら、連係プレイの精度を上げることができるようにする。 能動型学習 （ポイント） ◎全体の動きや自分の役割を確認しながら練習を行い、ゲームの中で作戦を実行できるようにする。	作戦ボード
14分	7 試しのゲーム（5対5） 【コート の 広 さ】 縦40m×横20m 【進め方】 ゲーム：5分×2試合 試合間：2分（チームトーク） 【主なルール】 ノックオン スローフォワード オーバーステップ オフサイド ラインタッチ	○セットプレイでは、チームで練習したプレイ（ボールを持たないときの動き）を発揮できるようにする。 ○互いに声をかけ合いながら、チーム全体で作戦を生かしたプレイができるようにする。 ○チームトークでは、セットプレイの改善を図ることができるようにする。 評価：評価の観点（評価の方法） B基準：チームの話合いに積極的に参加しようとしている。 A基準：B基準に加え、「自ら進んで意見を発言し」（B基準に達していない生徒への手立て） ・チームの仲間の良さをだし、自分の役割を話し合うように支援する。	
3分	8 チームミーティング	○ゲームの振り返りを行い、互いの良さやチームの課題などを確認する。	作戦ボード
整理 7分	9 本時のまとめ ○学習の成果と課題を確認し、発表する。 ○次時の確認をする。	○本時の学習で、意識した点や課題点を学習カードに記入し、発表する。 ○次時の活動の確認を行う。	学習カード